

1. 雄大な明石海峡を訪ねる道

明石海峡を渡れば、そこは淡路島。島ならではの、のんびりとした時間の中、振り向けばそこには明石海峡の雄大な風景が広がっています。

かつては航海の難所と呼ばれた明石海峡。それでも多くの人がこの海峡を渡り、淡路島の人々と交流していました。そんな淡路島の玄関口で、明石海峡の魅力を様々な角度から楽しんでください。



岩屋港

淡路島名所今昔物語 「松帆浦」

淡路島の最北端に位置する、松帆の浦の目の前には明石海峡が広がっています。航海の難所と呼ばれた明石海峡を渡る船は、しばしばこの松帆の浦で風待ち・潮待ちをしたといわれます。かつての松帆の浦には見事な松林があり、その様子は『淡路国名所図絵』にも描かれています。

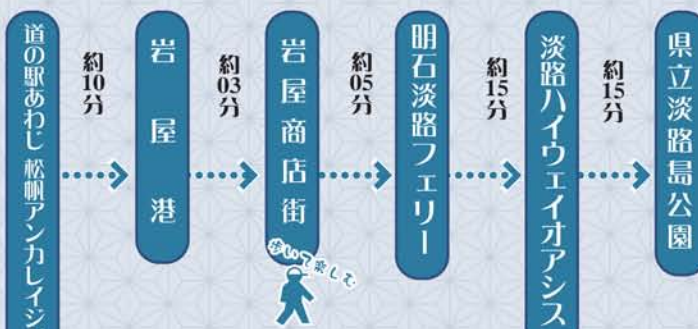
江戸時代後期に完成した地誌『淡路国名所図絵』は、挿絵入りで詳しく淡路島の名所旧跡を案内しています。このガイドブックに掲載している図絵は、この本の挿絵に着色を施したものです。



淡路国名所図絵より「松帆浦」



シーニックコース



● 道の駅 あわじ 松帆アンカレイジパーク



「道の駅あわじ」では、ちりめんじゃこや穴子焼などの淡路島の特産品を味わえます。併設された松帆アンカレイジパークでは、明石海峡大橋やそれを支えるアンカレイジ（コンクリート塊）の迫力を間近に感じることができ、また雄大な明石海峡と船々の景色を楽しめます。

滞在時間：約 30 分

● 岩屋港



淡路島の北の玄関口として古くから栄えた港で、現在も明石淡路フェリーや島内路線バスの発着所となっています。港は明石海峡で漁をする漁船で賑わっています。世界第三位の速い潮流を持つ明石海峡でとれる魚介類は新鮮で美味しく、特に冬場のタコは絶品です。

滞在時間：約 30 分

● 岩屋商店街



昭和の風情を残した、昔ながらの商店街。地元の人とのふれあいを楽しみながら、のんびり散歩できます。

滞在時間：約 30 分



● 明石淡路フェリー



明石と岩屋を約 20 分で結ぶ明石淡路フェリーは、通称「たこフェリー」として親しまれ、明石海峡大橋ができた現在も多くの人々が利用しています。

爽やかな潮風に吹かれながら、明石海峡の絶景を楽しむことができ、秋の夕暮れ時には船上から美しい夕日が見られます。

滞在時間：約 30 分

● 淡路ハイウェイオアシス



神戸淡路鳴門自動車道の淡路SAに連結されている日本最大級のハイウェイオアシス。中心となるオアシス館は、花と緑のアトリウムを中心に、レストラン、売店、淡路観光情報センターなどの施設を備えています。県立淡路島公園にも連結しており、「花の谷」では四季折々の花を楽しめます。

滞在時間：約 45 分

● 県立淡路島公園



明石海峡を望む丘陵地に位置する、約 71.7ha という広大な都市公園。ハイウェイオアシスに連結するハイウェイオアシスゾーン、森林浴を楽しめる森のゾーン、アスレチックが人気の交流ゾーンの3つに分かれており、森のゾーン展望広場からは明石海峡の絶景が望めます。

滞在時間：約 45 分

風景の味わいかた その1

● 道の駅 あわじ松帆アンカレイジパーク

明石海峡大橋を繋ぎ止める巨大なアンカレイジの周辺は、公園として整備され「道の駅あわじ」と一体になっています。この公園は、明石海峡大橋を下から眺める絶好のビューポイントです。道の駅あわじでは、新鮮な魚介類や野菜などの島内の特産物が販売され人気を集めています。

ここでは、道の駅あわじ松帆アンカレイジパークの魅力を体感する風景の味わいかたをご紹介します。



一 聴く ● 海峡を渡る船の音を聴く

明石海峡を見渡せるデッキに立ち、明石海峡を渡る船の音を聴こう。



体感ポイント



海峡を渡るフェリー

二 触れる ● 35トンのシンカーに触れる

公園の芝生広場に立ち、展示されているシンカー（大橋工事に使われた重り）に触れてみよう。



体感ポイント



35トンのシンカー

三 香る ● 明石海峡の潮風を香る

明石海峡を見渡すデッキに立ち、雄大な明石海峡から吹き込むさわやかな潮風を香ってみよう。



体感ポイント



明石海峡



四 味わう ● 香ばしい穴子丼を味わう

道の駅の売店で穴子丼を購入し、公園のベンチで明石海峡大橋を眺めながら味わおう。



体感ポイント



穴子丼

五 見る ● 頭上に迫る明石海峡大橋を見る

巨大なアンカレイジの下に立ち、アンカレイジと明石海峡大橋を真下から見上げてみよう。



体感ポイント



明石海峡大橋

六 感じる ● 世界最長の吊り橋を大いに感じてみる

世界最長のつり橋・明石海峡大橋の迫力と明石海峡の魅力を感じる。

